

必ずできる!

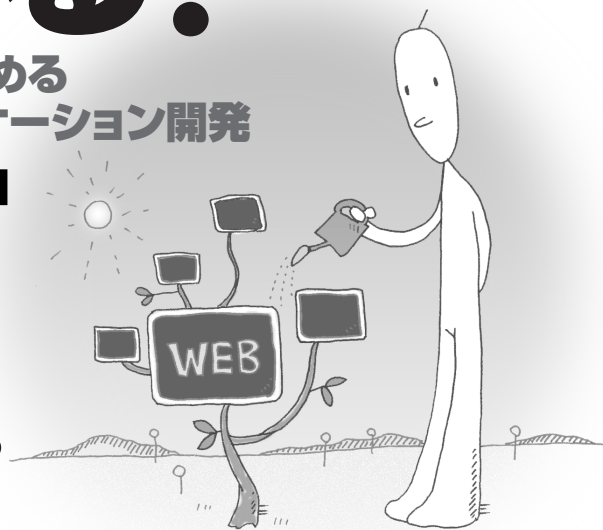
基礎固め ゼロからはじめる Webアプリケーション開発

ASP.NET

最終回

次期バージョン ASP.NET 2.0が変える Webアプリの世界

山田 祥寛 YAMADA, Yoshibihiro
<http://www.wings.msn.to/>



Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
MSDE

Level



Samples

どうなる? 次世代のASP.NET

コードネーム“Whidbey”の名称で開発が進められている Visual Studio .NETの新バージョン——Visual Studio 2005がいよいよ姿を現わしはじめました。Visual Studio 2005では、.NET FrameworkもASP.NETも“2.0”にメジャーバージョンアップし、従来機能の強化に留まらず、多くの新機能が追加されています。

いよいよ連載最終回となる今回は、Visual Studio 2005の簡易エディションのβ版「Visual Studio 2005 Express Beta (英語版)」を利用して、最新ASP.NET 2.0の魅力にほんのちょっとだけ触れてみることにしましょう^[註1]。

なお、本稿のサンプルを自分の環境で試したいという場合には、以下の

URLから Visual Studio 2005 Express Betaをダウンロードすることができます。

ダウンロード先

<http://www.microsoft.com/japan/msdn/vstudio/2005/express/>

Visual Studio 2005 Express Betaは言語ごと、開発対象ごとに製品が分かれています。ASP.NETアプリケーションを開発したい場合には、Visual Web Developer 2005 Express Editionをインストールしてください^[註2]。

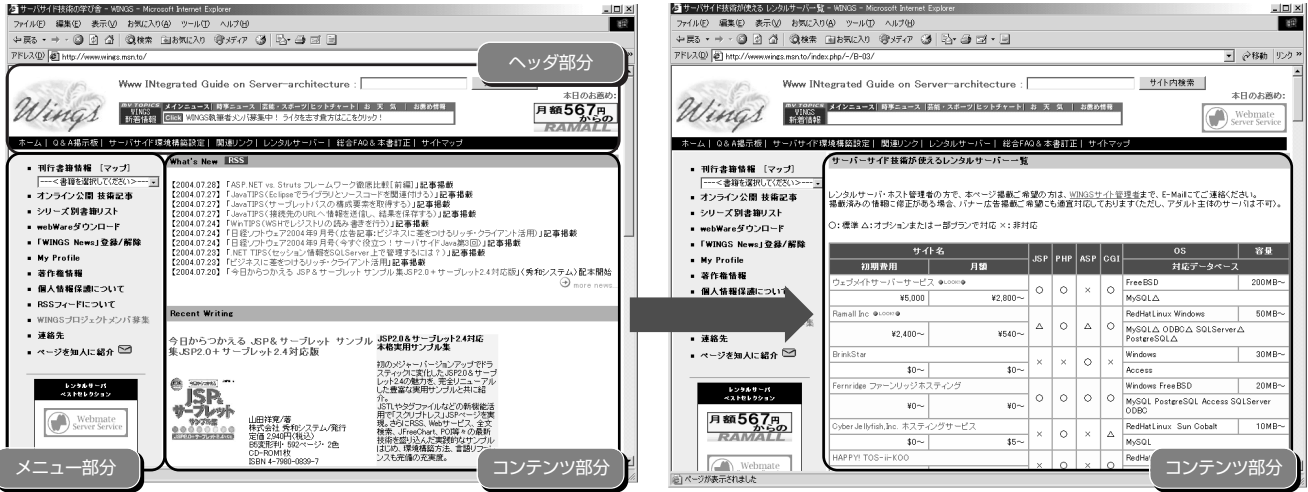
マスターページってなに?

まずは、ASP.NET 2.0の代表的な機能のひとつ、「マスターページ」について

注1) ただし、本稿の内容は執筆時点での情報に基づいています。ASP.NET 2.0も Visual Studio 2005もβ版ですので、正式リリース版では内容が変更になる可能性があります。注意してください。また、各種ソフトウェアを導入する場合には、各自の責任において行ってください。

注2) インストール方法、基本的な操作方法などについては、http://www.atmarkit.co.jp/fdotnet/insiderseye/20040708expbeta1/expbeta1_01.htmlなどの記事が詳しいので、併せて参照してみると良いでしょう。

図1：マスターページの利用に適したサイトの代表的な構成



共通部分はそのままに、コンテンツ部分だけを入れ替える

て見てみましょう。

開発生産性、ユーザビリティの観点から、サイト内のデザイン（ヘッダやフッタ、メニューなど）を共通化したいというケースは多いと思います。そのようなときに、マスターページを利用すれば、ベースとなるレイアウトをあらかじめ定義しておき、ページごとに異なるコンテンツ部分のみを動的に入れ替えることができます（図1）。

このような仕組みは、ASP.NET 1.xでも実現することができました。そう、本連載第9回で紹介したユーザーコントロールがそれです。これはこれで、ある一定の役割を果たしてきましたが、いくつかの問題点もありました。

ひとつに、（たとえば）ヘッダ、フッタ、メニューがそれぞれに個々の部品として定義されているため、各ページに個々の部品として配置する必要がありました。つまり、もし新たに共通のコンテンツ部品としてサイドメニューを追加したいといった場合には、すべてのページに対して追加作業を行なわ

なければならなかったのです。これは、大規模なサイトになれば、大変面倒なことです。

もうひとつは、IDEの表示上の問題です。ユーザーコントロールを個別の「.aspx」ファイルに配置した場合、グレーの四角としてしか表示されません。つまり、わざわざGUI画面上でフォームをデザインしているにも関わらず、ユーザーコントロールにしてしまった途端、その部分だけは視覚的に確認できなくなってしまうのです。

これらの問題点を、マスターページは解消しました。まずマスターページは、その名の通り、サイト内のベースとなるレイアウトを「1枚のページ」として定義します。つまり、ヘッダやフッタ、メニューなどはすべて1個の塊としてみなします。ですから、サイドメニューを追加した場合にも、マスターページさえ変更すれば、個々のコンテンツに影響が及ぶことはありません。また、あとからお見せするように、マスターページで定義した内容を、個別

のコンテンツページとして編集する場合にも、フォームデザイナー上で視覚的に確認することができます。

マスターページを利用すれば、統一されたデザインのサイトを構築しやすくなるのです。

※まずはレイアウトを定義

それでは、実際にマスターページを作成してみましょう。マスターページを新規生成するには、メニューの [File] - [New File] から「Add New Item」ダイアログを開き、「Master Page」を選択してください（図2）。ファイル名は「site.master」としておきます。

本稿で紹介するsite.masterのレイアウトはごく単純です。図3のようにImageコントロールとContentPlaceHolderコントロールを配置しているだけです。各サーバーコントロールのプロパティ値は、表1のようにそれぞれ設定してください。ContentPlaceHolderコントロールは、その名の通り、あとからコンテンツを動的に埋め込むためのコンテ